

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6 年 3 月 29 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676800172
法人名	有限会社コンフィアンス
事業所名	グループホームふれあいの丘
所在地	鹿児島県志布志市志布志町志布志1330番地 (電話) 099-413-8166
自己評価作成日	令和6年2月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和6年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームふれあいの丘は、同一法人の介護付き有料老人ホームひかりの丘と協力医療機関である志布志中央クリニックが、隣接しており、事業運営や医療連携が得られやすい環境にある。また、グループホームに看護師を4人雇用し、医療との連携及び医療ニーズへの対応に強い施設になっている。施設での看取りも行っている。施設が郊外にあり、敷地が広くのどかな環境下にある為、地域の方を招待して、秋祭りを開催している。また、事業所開設から20年経過しており、認知症ケアの実践を積み重ねてきている事も強みである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、東九州自動車道の志布志インターチェンジから車で約5分の場所に、同法人が経営する介護付き有料老人ホームと隣接して、平成16年に開設されている。周辺には協力医療機関、薬局、コンビニ、鍼灸院等があり、静かで利便性の良い環境にある。法人の志布志事業所として、有料老人ホームとは運営や研修等において、情報の共有や連携体制が整備されている。

「介護される人も、する人も共に生きられる地域社会をめざして」という理念を掲げ、ケア目標として、家庭的な温もりが感じられる環境の中で、穏やかに安らぎのある暮らしや個性を見だし自信と自立を高めるケアを目指している。また、毎日笑顔であいさつし、できる家事はいっしょに行い、不安なことは相談することを利用者の目標とし、利用者が本人らしく生活できるような支援に努めている。

令和5年度より家族会が再開されている。日頃から家族との関りは良好で、信頼関係を築くことを重視して思いの把握に努め、ケアに反映できるように努めている。運営推進会議への参加、面会・電話・LINE・メール・タブレットによるテレビ電話・利用者の近況報告や写真等により、家族の意見や要望の把握に努め、出された意見等をサービスの向上に繋げられるように取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「介護される人もする人も共に生きられる地域社会を目指して」という理念を掲げ、理念をケアの道標として日々支援を行っている。	ホームの理念と職員で話し合って決めた3つのケア目標を玄関とホールに掲示している。理念に沿ったケアとなっているか定期的に振り返り、意義について共有できているか確認しながら職員間での周知を図っている。家族との連絡を密に取り合い、「家族の温もり」を大切にしたいケアに取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	R5年9月に地域の入居者様とご家族、地域の方々を呼んで、秋祭りを開催する事ができた。感染症に留意しながら、行事などを通じて、地域との付き合いが継続できるように努めている。	町内会には現在加入していないが、今後加入予定である。小学生の体験学習、秋祭りでの保育園児の体操披露・太鼓演奏を受け入れ、近隣の散歩時には住民と挨拶を交わし、家族から花や苗の差し入れを頂くなど、日常的に地域と交流している。ホームは災害時の避難所として受け入れ可能であり、入居の問い合わせや施設見学にも対応して地域に開かれたホームを目指している。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	家族や地域の方から、認知症の方の相談を受ける事も多く、地域の福祉機関と連携を取りながら、支援を行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、利用者やスタッフ状況、評価の改善について相談し、有意義な意見を頂きつつ、運営に取り組んでいる。	会議は、家族、民生委員、行政職員、市議会議員、鍼灸院の方々が参加して、定期的に開催している。ホームの現状・今後の方針・ヒヤリハット等について報告し、議事録は玄関での閲覧も可能である。昼食会を兼ねて開催することもあり、認知症等についての知識が少ないからこそ率直な意見を頂くこともでき、有意義な会議となっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険関係事業の中で、分からない事や相談事は、行政に直接出向いたり、電話などで相談や協議をしている。また、介護関係資料の提出や介護研修など参加の際に、助言を頂き、日々の業務運営に繋げている。	市の職員とはメールを中心に日頃から連携を図っており、介護保険関係の諸手続き、入居に関する地域包括支援センターとの情報共有等に努めている。生活保護や成年後見人制度利用中の処遇に関する連携にも努め、市やグループホーム協議会主催の研修会に出席して意見や情報交換を行い、サービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を月1回開催し、その中で、事例の報告や検討を行い、身体拘束をしないケアの実践を行っている。また、年2回の研修の中で、身体拘束の具体的な行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアの取り組みを行っている。	「身体拘束の適正化に関する指針」を整備し、身体拘束改善委員会を有料老人ホームと一緒に3か月毎に開催している。身体拘束に関する研修は、高齢者虐待予防と共に年2回実施している。改善委員会ではユニット毎に検討が必要と思われる事例について状況報告をして話し合い、スピーチロック等に関する研修会も実施し、職員間の認識を共有して拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に対しては、内部研修を通して、虐待をしないケアを話し合い学んでいる。また、日常のケアの中でも、スタッフの問題になる対応は、お互いが注意しあえる関係が出来ている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がおられるので、制度の勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約に関しては、その都度毎回丁寧に説明し、理解と納得を頂けるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日頃の何気ない言動や、家族の面会時の意見や要望など、思いを把握するように努め、日々の支援に反映させている。	利用者からは日頃の会話・表情・仕草や生活歴等から、家族からは面会・電話・ライン・メール・タブレットによるテレビ電話・利用者の近況報告や写真等により、意見や要望の把握に努めている。家族から職員の対応や面会等に対する意見が多く、日頃から信頼関係を築くことを重視して思いの把握に努め、ケアに反映できるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員会議や朝のミーティング時に意見や提案を聞いている。また、年度初めに会社への要望についてのアンケートを取り、年に1回は個別に面談し、意見や提案を反映させている。	職員間では日頃からコミュニケーションを図り、機会を捉えて意見や要望の把握に努めている。年1回の個人面談や人事考課を兼ねたアンケート等により、意見等を伝えやすいように配慮している。希望休や有給休暇の取得、職員間での勤務交替、資格取得に対するバックアップ等に取り組み、働きやすい就業環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、各部署の長からの報告や、面談を通じて職員個々の就業状況や働き方を把握し、能力、向上心などを理解し、個々人に応じた職場環境・条件の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、併設する事業所や他の地域の同一事業所との協力を得ながら、スタッフが個々の力量に応じた研修が行えるように、研修内容を検討している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成16年の事業開始以来、培われてきた地域のネットワークと、研修会、事業所間の相互訪問の活動等を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みが出来ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人様の要望や家族の意見を聞き、プランに反映している。また、入居後に変化があった場合は、その都度意見を聞きながら、プラン変更(ミーティングにより)を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在のご家族様の状況、利用開始前の事前調査・ご家族様からの要望をお聞きし、職員間で検討を行い対応している。状況により、主治医はじめ関連機関と連携をとるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込時の状況、利用開始前の事前調査・ご家族様からの要望をお聞きし、職員間で検討を行い対応している。状況により、主治医はじめ関連職種と連携をとり、ご本人にとっての必要なサービスを検討に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に集い、ともに活動する事を心掛け、言動を見逃さず、本人から暮らしの知恵の伝授や得意な事での活動参加を引き出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話時、面会時や近況報告書にてご家族へ状況をお伝えし、情報の共有を図り、ケアの方向性を考え、連携できるよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが5類になっても、感染症対策での面会制限、受診も影響を受けていますが、主治医やかかりつけ医と連携を図り、継続受診をするように努めています。オンライン面会・窓越しで、ご本人を見ながら、ワイヤレスインターホンでの会話など状況がわかるようにしている。	面会は予約制で居室のガラス窓越しに実施しており、家族以外の知人等との面会については、家族の判断に委ねられている。コロナの感染状況に応じて、対応が緩和されれば玄関で可能とする方向で検討している。家族との外出・外食・受診等は可能であり、電話や年賀状の取り次ぎ、職員による理美容など、本人が大切にしてきた人や場との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけ、日中はホールに楽しく集える環境を整えている。また、隣の利用者に声掛けやちょっとしたお手伝いなどの交流の機会を大事にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ご家族の相談が有れば、経過をフォローしながら、関係機関と連携し、支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ、ご本人の思いや暮らし方の希望を尊重し支援を行う様にしている。農作業が好きな方は、施設での小さな畑や花壇を活用するなど、取り組んでいる。	自分の思いや意向をうまく伝えられない利用者が多く、僅かな反応や表情から推測したり、その時々で職員が把握した情報を共有するなど、色々な場面で利用者の思いや希望を聞き逃すことなく把握に努めている。利用者が望んでいることやできることに取り組むことにより、職員も生き生きとした支援に繋がれることを目指して、自信と自立を高めるケアという理念に沿えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やこれまでの関りのある方への聞き取りを詳細に行い、生活歴や生活環境を把握する事で、その人らしく生活できるよう対応している。また、得られた情報はスタッフ全員で共有し、同じ対応が出来る様にしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームでの生活状況を確認しながら、ご本人の心身状態や有する力を把握している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の意見や要望を聞き取り、プランの中に反映させている。受診時に主治医の助言を支援内容に組み込んで詳細なケアプランを作成している。	利用者や家族の思いや意向を把握した上で、受診時の主治医の意見、訪問看護師や薬剤師等からのアドバイス、申し送り等の情報を基に職員間で話し合って介護計画を作成している。利用者の希望と身体状況との間にズレがある場合は、職員が傾聴して詳しく状況把握に努め、利用者毎のこだわりにも個人的に寄り添って支援を行っている。モニタリングは6か月毎に実施し、年1回は介護計画を見直し、必要な場合には修正してケア目標に沿った計画となるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分・排泄等日々の様子を記録しており、職員間での情報を確認できるようにしている。また、連絡帳・申し送り表を活かし、情報共有ができるようにしている。状況に応じてミーティングを行い、ケアの見直しを行いプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者本人及びご家族の状況に応じ、相談・助言を行っている。また、併設の有料老人ホームでどんなサービスを受けられるか等、説明・紹介を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員に地域サロン、民生委員、市議会議員、元市議会議員、市保険課の方に入っていたき、ご家族様を交え多義にわたる助言を頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、なるべく変更せずに継続受診を心掛けている。状況に応じてスタッフが同行したり、ご家族との受診をお願いしている。	本人・家族の希望するかかりつけ医の医療機関での受診を支援しているが、今後は訪問診療に変更していきたいと考えている。年1回は訪問歯科診療が行われ、皮膚科・眼科・整形外科・精神科等の専門科受診には職員と家族が協力しながら同行し、主治医からの往診を受けた場合は診療情報提供書が届けられる。夜間は、主治医毎にオンコールと救急外来により各々対応して頂いている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護士も共に介護を行う事で、職員は協同して、個々の利用者の変化を速やかに共有し、早期に受診し適切な医療、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	感染症対策で面会できないため入院先の相談員や、担当看護師に連絡をとり、情報を得るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より、重度化対応・終末期ケア対応指針の説明や終末期に係る事前調査を行っている。ターミナルケアへの移行時は、ご本人様の情報をご家族様と共有し、説明・ご理解いただいたうえで、終末期に係る事前調査を現状に合うように取り直し、訪問診療・訪問看護等を利用しながら、ご意向に沿うように進めている。	重度化した場合の対応及び看取りに関する指針について入居時に説明し、事前意思確認書により家族の思いを汲み取りながら、自然のままに最期を迎えられるような看取りを行っている。ホームには4人の看護師が雇用されており、看取りについての研修を実施して職員のスキルアップを図り、不安の軽減にも努めている。看取り終了後には振り返りや勉強会を行い、次の機会へ向けてのステップアップとなるよう活かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを見て、日々研鑽している。看護師・管理者への連絡を行う等している。夜間は、ONコール対応できるよう周知している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	社内の火災避難訓練を消防署立会いで年1回実施参加し、自主訓練を年2回実施している。	B C P計画を作成し、火災・風水害・地震に対して夜間想定を含めた避難訓練を実施し、そのうち1回は消防署立ち会いとしている。今後は町内会に加入し、地域の訓練にも参加していきたいと考えている。自動通報装置は消防署だけでなく近くに住んでいる職員にも繋がり、消火器や避難経路等の確認も行っている。備蓄は飲料水・米・レトルト食品・缶詰・ラーメン等を約3日分確保し、カセットコンロ・ヘルメット・懐中電灯・簡易トイレ等も準備して、防災への意識を高めて対策に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、基本的な人権の尊重を重んじ、一人ひとりの声掛けやプライバシーに配慮しながら、支援を行っている。	プライバシー保護マニュアルを定め、接遇・ハラスメント・コンプライアンス等に関する研修を実施して、職員の理解を深めて意識付けを図っている。トイレでは転倒リスクがない場合は扉を閉め、居室にはノックしてから入室し、呼称は名前に「さん付け」し、申し送りは小声で名前ではなく番号で表現するなど、人格を損ねる言葉遣いやケアにならないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日常生活の中で、自然に希望や思いが表出できるように、利用者の思いに寄り添い、希望がかなえられるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	突然帰宅したいという行動が起こるのでその心情を理解し、家族からの言葉を交えて、本人が納得できるような対応もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の着用したいものを勧めるが、中には重ね着をされたり、こもり熱も出るので季節に合わせた服装で過ごせるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は職員と入居者と同じ時間に食事を摂り、料理の感想や作り方等々話をしていたが、感染症対策にて時間をずらしとっている。できる手伝いはしていただいています。入居者が召し上がっている際は味付けについて話をしたり、楽しく召し上がっていただけるようにしている。	利用者の食べたい物を聞きながら、調理担当職員が週5日、昼食と夕食を調理し、その他は職員が交替で調理している。利用者の身体状況に応じた食事形態に配慮し、行事食、リクエストメニューによる誕生会、年1回の仕出し弁当のテイクアウト、近くの「うなぎの駅」での外食等を支援して、食べる楽しみを大切にした支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医や栄養士のアドバイスなどを参考に、食事カロリーや水分量などを決めており、習慣や好み、治療食など注意しながら、献立を決めている。毎日の食事量や水分量は記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔衛生管理加算を頂き、協力医療機関のなかしま歯科より、指導を頂きながら対応し、その方に応じてなるべくご自分でしていただき、できない方は、声掛け・介助を行い口腔ケアを行っている。自分でできなくなった方に対しては、口腔ガーゼや舌ブラシ等を使用して清潔保持や誤嚥防止している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を参考に、自立の方は排泄の失敗の回数が減らせるよう声掛けを行うようにしている。介助の必要な方は、チェック表を参考に声掛け・誘導・一部介助しながら支援している。その方に合った排泄方法で取り組んでいる。	日中は近づいて小声で声かけしたり見守り等で、排泄チェック表を活用しながら可能な限りトイレでの排泄を支援している。オムツ使用者もいるが、リハビリパンツや布下着で過ごせるように利用者の身体状況や希望を考慮して、個別的な支援に努めている。便秘対策として内服している利用者が多く、主治医の指示に基づき、食事面だけでなく体操や散歩等、体を動かすことで改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や繊維質の食べ物などを取り入れたメニューを心掛け、おやつに芋等を摂ってもらうようにしている。主治医へ相談し、服用管理含め、助言を頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決まっているが、体調や気分を優先し、柔軟に変更している。また、浴槽にゆっくりつかりたい方や温度の好みなど個々に応じた入浴支援を行っている。	入浴は週2回、入る順番は決めずに午後から個浴で支援している。湯船に浸かれない場合は、シャワー浴・足浴・部分清拭等により清潔の保持に努めている。入浴剤の使用やゆず湯を提供し、楽しんで入浴して頂けるように工夫している。入浴をためらう場合は声かけする職員や日にちの変更等により、タイミングよく入浴できるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調管理の為、状況に合わせた休息を取り、安眠に支障の無い様に取り組んでいる。夜間不眠が続いたり、興奮等で不安な場合は、専門医に相談するようにし、不安で休めない時は話を聞いたりして落ち着いて頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期受診時に主治医に報告して、指示を仰いでいる。飲み込みの悪い方に対してはトロミをつけて服用支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や本人からの反応などから、アセスメントし、できる事や好きな活動を把握し、個々に応じた活動を行っている。花壇散策やタオルたたみや新聞おりなど日常的に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対策の中で、希望に添えない事もあったが、その中でも本人や家族の希望に沿って、外泊や外出、職員同伴でのウナギの駅での外食など、地域の方に協力を頂きながら支援している。	コロナ感染状況を考慮しながら、ホームの近くで桜の花見やその他の季節の花見を楽しんでおり、車窓ドライブは計画したが実施できていない。家族との外出・外食・受診に出かけたり、クリスマス会・新年会等の季節の行事や敷地内散歩など、できるだけ戸外に出かけてリフレッシュできるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つことの大切さは理解しているが、ご本人の状況等で金銭管理が難しく、お小遣いとして預かり管理を施設で行っている。本人の購入依頼は、スタッフにて行ったり、家族に伝え購入して頂くなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族とのオンライン電話が、利用できるようになり、ご家族様から連絡が増えている。ご家族のことを心配される思いが強い時は、家族への電話支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、季節に応じた飾りつけや、花を飾り、音楽をかけるなどしている。また、心地よい清潔な空間になるように、心がけている。	ホールには利用者の目標があちこちに掲示され、利用者は毎日確認しながら生活している。季節の作品や生花等が飾られ、ソファ・テレビ・日めくりカレンダー・時計等が配置されて、利用者が和やかに過ごせる空間となっている。明り取り窓による換気、空気清浄機・超音波加湿器を設置し、今後は各居室に換気扇を取り付ける予定である。清掃専門の職員が週4日配置され、利用者もできる範囲で協力して清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き、ゆったりできる場所を提供している。フロア内で、利用者同士で話をされるときは、椅子の移動を行い話しやすいように心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の好みや生活スタイルに合わせて自宅で愛用のものを持ち込んで頂くようにしている。タンス等の配置は、ご本人ご家族に相談をし、使い勝手の良いように努めている。	居室はフローリングの掃き出し窓となっている。電動ベッド・エアコン・クローゼットかタンスが備えられ、利用者は家庭同様に過ごせるように写真・作品・テーブルやイス・衣装ケース・ハンガーラック・コップ等を持参し、家族は面会時に窓越しに居室の様子を伺うことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の状況を見ながら、ミーティングを行い、不安や混乱を起こすような物がないか、動線状況は安全であるかなどを、絶えず確認して、自由に安全に行動できるように支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない